

HKS関西サービス流 旧シルビアチューニング

Q'sをベースにゴキゲンなNAチューニング

HKS関西サービスといえば、やっぱオールマイティなターボチューニングがおなじみだが、Q'sをベースにゴキゲンなNAチューニングを見せてくれたぞ。NAの良さは何といってもハイレスポンスとスムーズな吹き上がりにある。その良さをさらに引き出すため264°/272°カムシャフト、フライホイール軽量、スポーツインジェクションなどでスポーティなセッティングが施されているのだ。またフットワークもHKSサスペンションキット、⑤ビックブレーキローターでパッチリ。ワインディングロードを攻めるのが楽しくなってくるマシンだ。



コントロールを楽しむクルマに仕上げたい

トライアル☎0729-65-6823

牧原道夫



シルビアってこれまでにないクルマのイメージなんですよね。1.6リッターカーのフィーリングなんだけど走りオンリーじゃない。そしてスタイリッシュでオシャレに乗りこなすこともできる。そこが人気のある点だと思うんだけど、悪くいえば味つ

けがはっきりしていないんだよね。だから旧シルビアのチューニングは加速重視のパワーにちょっとウエイトを置いた仕様が一般的だった。タービン交換、過給圧アップ、スポーツマフラー、燃料セッティングで320~330psあたりが一番おいしいチューニングだね。

SR20DETを搭載したことによってシルビアはおもしろくなると思うよ。トルクも増して扱いやすくなったはず。ATとのマッチングもいいんじゃないかな。ただMAXパワーが6000rpmというのは物足りない。もうちょっと上まで回って欲しい気はするね。

チューニングとなれば当然、従来のどりのパターンとなるが、絶対パワーは必要じゃない。タービン交換までして上での味つけをはっきりさせようと思う。すでにパルサーGT

I-RでSR20DETのチューニングはスタートしていますよ。

シルビアといえばFRで足のセッティングが気になるところ。これはスーパーハイキャスの有無、ドライバーの好みもありセッティングは異なってくる。いずれにせよ、エンジンパワーにマッチしたコントロールが楽しめるクルマに仕上げたいよね。

シルビアのようなクルマは、セカンドカー的な発想でチューニングができればおもしろいだろうね。



オリジナル42.7φ EXマニホールド TO4E改(A/R0.63 50トリム) HKS3層スペシャルタイプインタークーラー 過給圧1.0kg/cm² HKS75φマフラー プリッツMF C AIC II+380cc/min×2 プリッツスポーツローターキット オリジナルブレーキパッド



トライアル流 旧シルビアチューニング

TD06からTO4E改へとステップアップ

CRのステップアップチューニング企画、ファンタスティック計画に登場したこのシルビア。ステップ2でTD06(14C 8cm)を使いフレキシブルな280ps仕様をビルドアップ。そしてステップ3ではTO4E改(A/R0.63 50トリム)にタービンを変更し、それに見合ったインタークーラー、燃料系のセッティングで330psを絞り出した。このハイパワーに対処するためブレーキ系のチューニングも忘れちゃいけない。またインテリアにはレカロ限定モデルSRハリアーをセットするなど、走りのみならずトータルバランスの優れたマシンにビルドアップされていた。

使った380ps仕様も作りました。谷田部のテストでは、最高速=277.77km/h、0→400m=12秒9を計測しています。ただ旧シルビアの場合、エンジンのマウント系が弱いんですよ。エンジンがブレてシフトチェンジがスムーズにいかなくなるんです。エンジン本体の出来はいいと思います

チューニングベースとしてはおもしろいクルマだ

藤田エンジニアリング☎0729-49-1313

藤田徹晴

旧シルビアはエンジンに関してはいろいろなターボチューニングを施しましたよ。ニスモタービン、T3

G、TD06G……。中でもTD06Gが330~340psのスペックで、乗りやすくパワーもあるオススの仕様ですね。そしてうちではTO4Sを

H3A